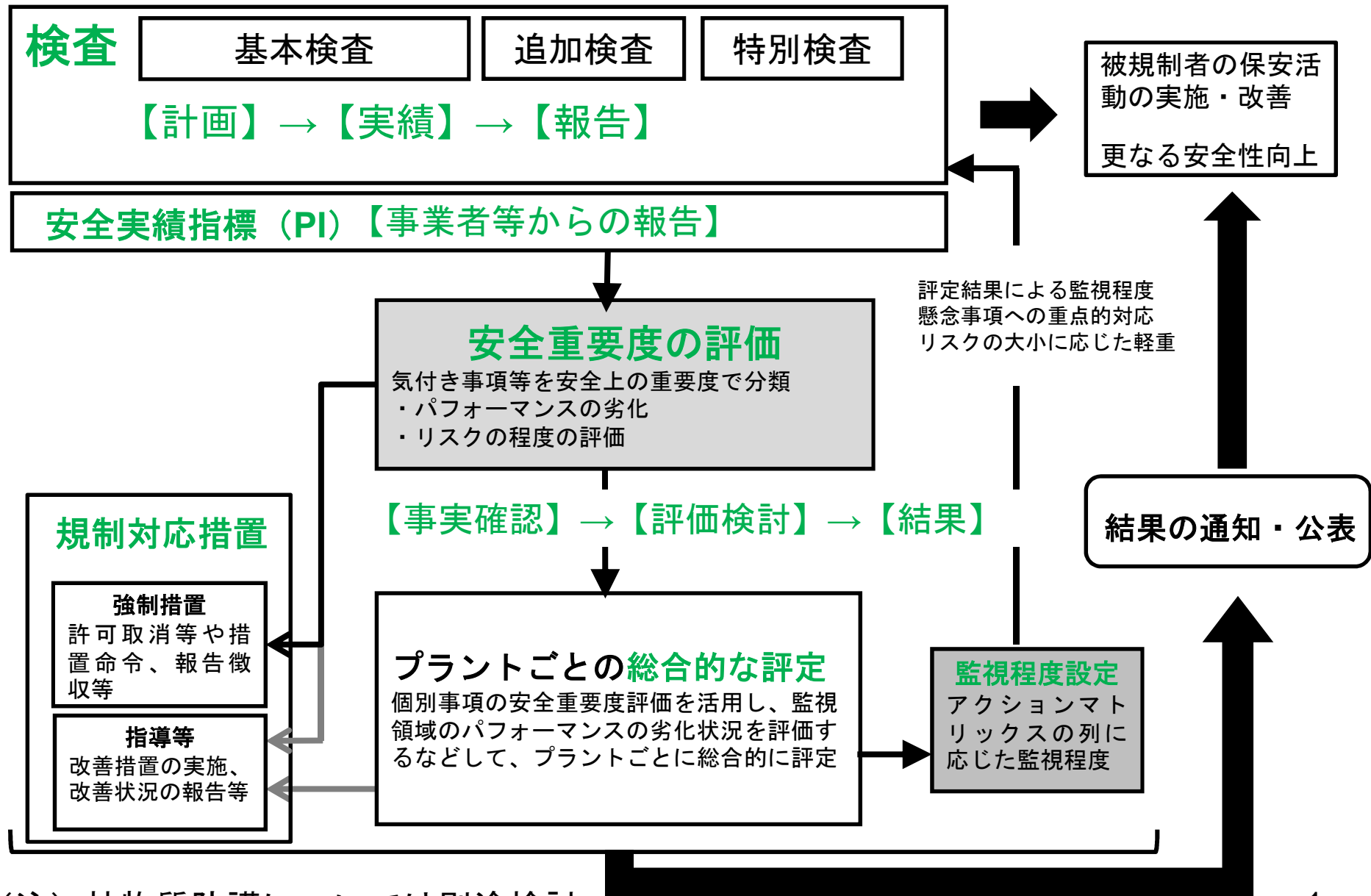


記録・文書類の作成について

1. 業務の流れに応じて必要な情報



(注) 核物質防護については別途検討

2. 情報の管理

検査

※原子力規制委員会HPでの公開文書

【計画】

- ・ 年間チーム検査計画 →事業者等と情報共有する。→文書化
- ・ 追加検査計画 →基本検査（日常検査、チーム検査）の指摘事項の評価から発生し、事業者等の改善状況も考慮する検査であるため、事業者等と情報共有する。→文書化
- ・ 日常検査計画 →日々変更されるため文書による計画書はない。
- ・ 特別検査計画 →事象発生に伴い行われるので文書による計画書はない。

【実績】

- ・ 実施した検査内容の情報（検査ガイド、検査対象名、確認資料の名称）
→検査業務システム
- ・ 指摘事項の情報（事象概要、重要度の初期評価結果及び判断根拠）
→検査業務システム

【報告】

- ・ 検査報告書、追加検査報告書、特別検査報告書

→事業者等に通知→文書化、原子力規制委員会HP

安全実績指標PI

【事業者等からの報告】

- ・ 事業者等から報告されるPIデータ →原子力規制委員会HP

2. 情報の管理

安全重要度評価

規制対応措置

※原子力規制委員会HP
での公開文書

【事実確認】

安全重要度評価及び違反深刻度の評価資料（指摘事項の事実関係、事業者等の資料名称、評価の前提条件資料等）→文書化

【評価検討】

安全重要度評価・規制対応措置会合（SERP）用資料 →文書化

委員会等公開会合資料 →原子力規制委員会HP

【結果】

指摘事項重要度、SDP評価の詳細、対応措置違反深刻度 →検査業務システム

規制対応措置文書 →事業者等に通知 →文書化、原子力規制委員会HP

総合的な評価

総合的な評価の報告書 →原子力施設の総合的な評価を1年等の期間に一度公表。

→原子力規制委員会HP

監視程度設定

追加検査の判断表（アクションマトリクス）→原子力規制委員会HP

3. 実績の記録イメージ

検査登録

規制事務所	旧原子力規制事務所	
対象段階	長期停止段階	
対象施設	泊1号炉	
検査日	平成31年4月2日	～平成31年4月4日
検査官	泊事務所	
検査ガイド	ME1010 (自然災害防護)	検査項目 自然災害防護
検査予定時間	時間	
検査実施時間	時間	
検査実施メンバー		
検査対象・場所		
確認資料		

※試運用の結果を考慮して、詳細を検討

4. 指摘事項の記録イメージ

気付き事項 No.1

気付き事項 No.2

気付き事項 No.3

気付き事項 No.4

事象の概要

平成〇年〇月〇日、〇〇株式会社〇〇発電所〇機において、安全性向上対策工事で設置したフィルタベント設備の耐圧試験を実施するため・・・

重要度の初期評価結果
及び判断根拠

指摘事項になったらここを記載することとなる。

規制対応措置に係る要因の概要

監視領域

発見組織

原子力規制庁

指摘事項重要度

軽微

※検査官は、軽微、緑、緑超までを判断する。

対応措置違反

チェック項目

横断領域視点

備考

評価者入力

SDP評価の詳細

資料保存場所

評価済

※試運用の結果を考慮して、詳細を検討

5. 検査報告書のイメージ

報告書目次

1. 実施概要
2. 指摘事項リスト
3. 運転状況
4. 検査内容
5. 指摘事項の詳細
6. 未決定事案
7. 品質マネジメントシステムの運用 (PI&R) 年次検査結果
8. 確認資料
9. 特記事項

1. 実施概要

事業名: ○○株式会社
 施設名: ○○発電所及び中核炉
 ※1実施の場合に記載
 検査実施期間: 平成○○年○○月○○日～平成○○年○○月○○日
 検査実施場所: ○○原子力規制事務所
 ○○○○
 ○○○○
 ○○○○
 ○○○○
 原子力規制庁検査グループ検査管理課
 ○○○○
 ※2実施の場合に記載

※2実施の場合に記載

2. 検査事項概要一覧

指摘事項が無く、指摘事項無しと記載する。

No.1

検査事項のコントロール	○○発電所○中核炉 管理用ガス配管が閉鎖できない状態に於いて、安全管理が確保される動作可能とされている作業の実施
監視領域	監視領域
検査ガイド 対象サンプル	50 TOCO設備の汚染検出、汚染検出確認 非常停止の検出
重要度評価/深刻度レベル	軽微/日常業務/軽微 / 軽微/日常業務/軽微 (No.1/2/3/4)
特記事項の概要	平成○○年○○月○○日、○○株式会社○○発電所○中核炉において、安全対策として配管工事を実施した○○○○○設備の動作試験を実施する際に当該設備系統と非常停止の検出系(以下「SGTS」系統)との連携部分の異常が平成○○年○○月○○日、約10分間発生したことを事業者は自ら確認した。その結果、平成○○年○○月○○日から平成○○年○○月○○日まで当該期間において、SGTS系統が異常に経過

※試運用の結果を考慮して、詳細を検討

6. 安全実績指標 (PI) の公表イメージ

安全実績指標(PI)一覧 (実用発電用原子炉)

施設名 管理対象(号炉等)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
○○1号炉	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑
○○2号炉	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑
○○3号炉	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑
△△1号炉	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑
xxxx1号炉	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑
xxxx2号炉	緑	緑	白	黄色	赤	—	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑
xxxx3号炉	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑
xxxx4号炉	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑	緑
省略																					

※データがない場合

- 横軸：1. 7,000 臨界時間当たりの計画外自動・手動スクラム回数
 2. 7,000 臨界時間当たりの計画外出力変化回数
 3. 追加的な運転操作が必要な計画外スクラム回数 以下略

7. 安全重要度評価の結果文書のイメージ

目次

1. 検査指摘事項の概要

1. 1 事象の概要と原因

- ・ 検査気付き事項の概要と原因
- ・ パフォーマンス欠陥の概要及び監視領域

1. 2 法令又は保安規定違反

- ・ 法令又は保安規定違反の概要
- ・ 影響を受けた安全機能等の概要

1. 3 フェーズ1スクリーニングの結果

- ・ 緑を超えると判断するに至った根拠

2. 安全重要度評価の結果

2. 1 結論

- ・ 安全重要度案
- ・ 利用した附属書

2. 2 定量評価又は定性評価の結果*

- ・ 定量評価の結果 (Δ CDF及び Δ CFF) 及び定量評価で用いた仮定
- ・ 定性評価の結果
- ・ 不確実性の考慮 (必要があれば)
- ・ 感度解析の結果 (必要があれば)
- ・ 外的事象、火災、内部溢水等の考慮

2. 3 重要度評価結果

- ・ 結果に至った論拠

* 核燃料施設等は定性評価の結果のみ

8. アクションマトリックスの適用結果の公表のイメージ

アクションマトリックス（実用発電用原子炉）

	事業者による対応 (第1区分)	規制機関による対応 (第2区分)	監視領域の劣化 (第3区分)	複数／繰り返しの監視領域の劣化 (第4区分)	許容できないパフォーマンス (第5区分)
説明	すべてのPI及び検査指摘事項の評価が緑	監視領域（大分類）において白が1又は2	一つの監視領域（小分類）において白が3以上又は黄が1又は監視領域（大分類）において白が3	監視領域（小分類）の劣化が繰り返し又は、監視領域（小分類）の劣化が複数又は、黄が複数又は、赤が一つ	全体的に許容できないパフォーマンス
	各監視領域に必要な機能・性能は十分に満足している	各監視領域に必要な機能・性能は満足しているが、小程度の安全上の劣化がある	各監視領域に必要な機能・性能は満足しているが、中程度の安全上の劣化がある	各監視領域に必要な機能・性能は満足しているが、長期間の問題又は重大な安全上の劣化がある	プラントの運転は認められない安全に対する余裕が許容できない
評価結果	泊1号炉				
	〇〇〇1号炉				
	〇〇〇2号炉				
	××3号炉				
		△△1号炉			
	△△1号炉				
				△△2号炉	
	△△3号炉				
	〇〇〇1号炉				
	〇〇〇2号炉				
	〇〇〇3号炉				
	〇〇〇4号炉				
	〇〇〇5号炉				
	〇〇〇6号炉				
	〇〇〇7号炉				
		××1号炉			
				××2号炉	
		××3号炉			
	△△				
	〇〇〇				
			××		